

子どもたちの活動・体験拠点

児童文化センター

たくさんの

ボランティアに支えられ



また、春にはコヒガン、エドヒガンなど、さまざまな種類のサクラが咲き誇り、花見客でにぎわいます。それらの中に、花の色が淡い緑色である御衣黄という珍しい種類のサクラがあり、訪れる花見客の目を惹きまわっています。4月中旬から下旬までが見ごろです。皆さんも、ぜひ、出掛けてみませんか。

建物や施設の老朽化が進んでいるため将来、改築する予定があるそうです。広々としていて子どもたちが自由に伸び伸び遊べるという、現在の良さをいつまでも無くさず、いいほしいもの。これからも、ここで活動する子どもたちが楽しく、いろいろな体験ができる施設であり続けて

夏休みの開館日 増やし有意義に

高齢者まで幅広い年代の人たちが、子どもたちの活動を支えるために取り組んでいます。多くの子どもたちがより良い体験や交流ができるようにと、もつと多くのボランティアが必要。さまざまな分野で専門知識や技術を持っている人に対して、広く参加を呼び掛けているそうです。



家族で楽しもう

ほしいと思います。本年度からは夏休み期間中に限り、月曜も開館することになりました。子どもたちを思う、職員皆さんの誠意や愛情が感じられる開館日の拡大ではないでしょうか。もちろん、子どもたちにとっては、児童文化センターで過ごせる日が増え、夏休みをより有意義に過ごすことができると思います。

多くの人たちが 活動をバックアップ

現在、土日曜には、児童文化センターの職員に加え、現役の学校の先生たちが、指導や支援をしています。教職の専門家としての知識と経験を生かしながら、子どもたちが楽しく活動できるようにと頑張っています。また、そのほかにも、高校生から

オープン以来、今年で38年目を迎える児童文化センター。建物や施設は少し老朽化しましたが、子どもたちの活動はボランティアの皆さんに支えられ、ますます盛んです。その様子などについて、館長さんに話をお聞きしました。（担当は市民編集委員・古田島、大沢）
問い合わせは同センター ☎2224-2548へ。

開館は昭和44年 多彩な事業を展開

西片貝町五丁目にある、児童文化センターの開館は昭和44年。当時は北関東で唯一のプラネタリウムを持つ、最新の施設でした。そのプラネタリウムは現在も現役。上映する投影番組は年間10本ほどで、そのすべてを職員が手作り。作業は音楽・映像などに分かれて行いますが、声優は、児童文化センターで活動する子どもたちも担当しています。

こうした事例からも分かるように、「科学的な原理・法則を学ぶ活動や芸術文化に触れたり、自己表現をしたり、時代の変化に対応しながらたくましく、豊かに生きる子どもの育成」がセンターの運営目標。さまざまな学びを通して、子どもたちの「体験の場」「交流の場」になること

学校とは違う 貴重な経験を

「芸術文化教育」では、音楽や美術・演劇などに関する教室やクラブ活動があり、発表会なども盛大に行われています。これを通して、創造性を育みながら、自ら主体的に表現できる能力を養うことができます。また、「科学教育」では、天文や生物、地学などに関する教室やクラブ活動を通して、体験を重視しながら、子どもたちの「科学の心」を育てています。

その「科学教育」の一つに「環境冒険隊」があります。これは年齢・経験などから3段階に分かれています。「環境冒険隊1」は、小1から小3までが対象で、自然の中で川遊びなどを行っています。「環境冒険隊2」は、小4から中3までが対象。河川の生き物調べや自然観察、ホー

このような活動に共通していることは、実際の体験を通して学ぶ場が与えられているということです。さらに、ほかの学校や違う学年の人たちと接することができるなど、まさにすべてが学びの場という感じます。



地学教室「化石のレプリカ」

ムページ作りなどを行っています。「環境冒険隊3」は、環境冒険隊2の修了者が対象。小5から中3までが対象で、ほかの施設や企業と連携した実践・観察活動などを行っています。そのほかにも、理科クラブ・美術クラブ・移動天文教室・工作教室など、楽しく学べるクラブや教室がたくさんあります。